「平成18年度普及に移す成果」

傾斜回転目皿式播種機による大豆の定間隔播種技術

みんなで進めよう
茨城農業改革

農業総合センター農業研究所

傾斜回転目皿式播種機を使用することで、株間のバラツキを抑えた大豆の定間隔播種が可能です。株間のバラツキを小さくすることで、「タチナガハ」では、収量および大粒率が高まり、「納豆小粒」では、極小粒率が高まります。

株間のバラツキと収量・品質

大豆「タチナガハ」の条間60cmでの栽培では、株間のバラツキを抑えることで、収量や大粒率が高まります

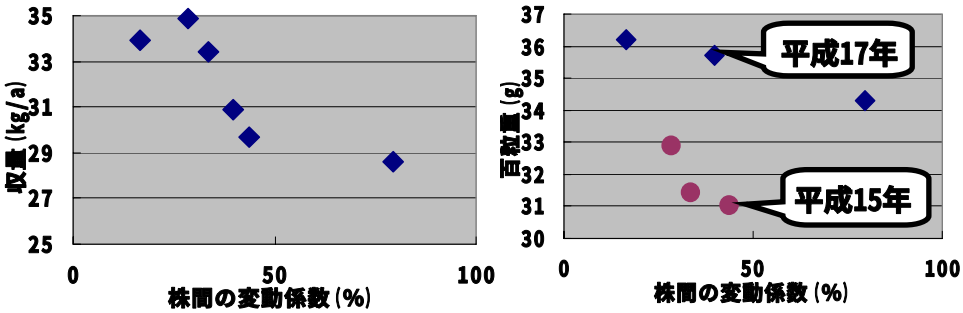

図１．株間のバラツキと収量（左）・百粒重（右）の関係

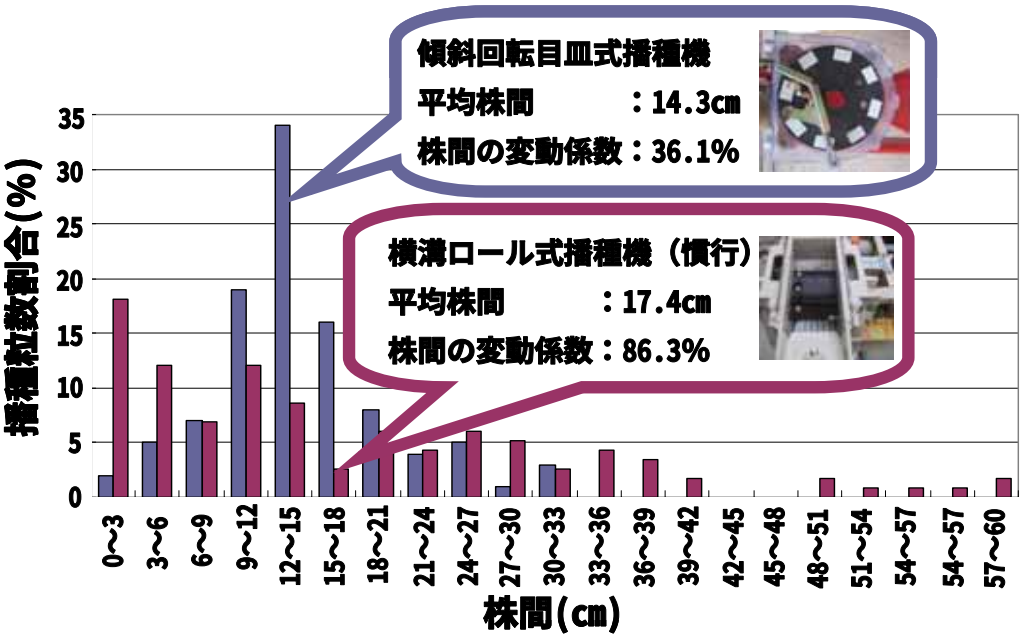

図２．播種機の違いが株間に及ぼす影響

傾斜回転目皿式播種機の播種精度

傾斜回転目皿式播種機は、横溝ロール式播種機と比較して、大豆の株間のバラツキを抑えた定間隔播種が可能です。

傾斜回転目皿式播種機の導入効果

傾斜回転目皿式播種機を導入して、大豆を25アール以上栽培することにより、横溝ロール式播種機を使用した栽培よりも、経済的に有利になります

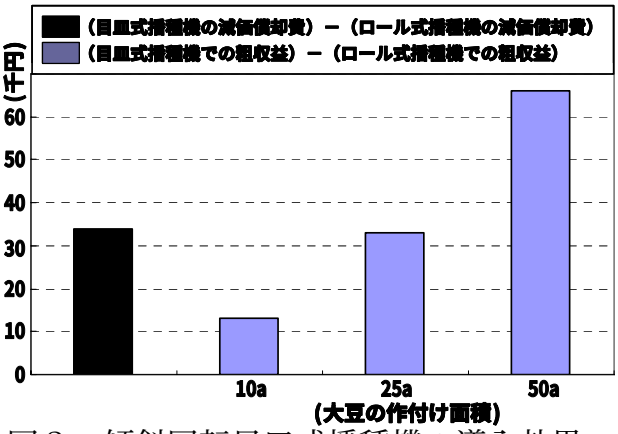

図３．傾斜回転目皿式播種機の導入効果

＜問い合わせ先；農業研究所経営技術研究室　電話０２９（２３９）７２１０＞